

九条の樹 76号

2019年1月発行



東久留米「九条の会」ニュース

発行：東久留米「九条の会」
連絡先：Tel 042-473-9489（鈴木）
ホームページ：<http://higashikurume-9.net>
メール：higashikurume9@jcom.home.ne.jp

第九条

1 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

改憲を实质化する防衛計画

矢倉久泰（東久留米「九条の会」副代表）

安部政権が2018年12月18

日に閣議決定した新しい防衛計画の大綱（防衛大綱）と中期防衛力整備計画（中期防）は、米軍と協力して宇宙戦争まで含むさまざまな戦力強化を盛り込んでいます。

その一つがヘリコプター搭載護衛艦「いずも」型二隻を改修して「空母」にし、相手軍を攻撃できる戦闘能力の高い戦闘機F35Bを搭載できるようにすることです。この戦闘機は空母から飛び立てるように短距離離陸と垂直着陸ができ、しかも「ステルス」という相手軍のレーダーに捕まれないようになってきます。それを搭載するので「攻撃型空母」ということになりま

す。この戦闘機を米国から42機

（F35A機を含めると105機）購入することになっていきます。その購入費と維持費は1兆円を超えます。

このほか、相手軍のミサイル発射を探知して陸上から迎撃する迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」も2機、米国から購入されます。（新規契約分2352億円）。防衛予算が過去最高の5兆2574億円（前年比663億円増）になったのも、これらの購入費が入っているからです。

こうした高性能の兵器は、米トランプ大統領の強い要請で、安部政権が買うことにしたので、トランプは大いに喜んだそうです。日米軍事同盟がますます強化されていることが分かります。

戦闘機もミサイルも米軍と協



力して使用することになっています。集団的自衛権の行使です。安部政権が集団的自衛権の行使ができるようにしました。これは明らかに「専守防衛」を逸脱した憲法違反です。「防衛計画の大綱」は改憲を实质化するものです。

では、日米はこの国を想定して集団的自衛権を行使できるようにしたのでしょいか。「軍事大国」になった中国です。ミサイル発射訓練をしていた北朝鮮も視野に入っています。そして新兵器開発が進むロシア。ほかに「テロ」対策も念頭に置いているとされます。

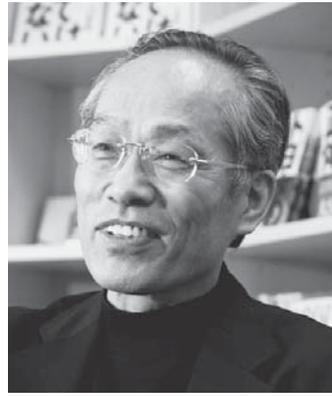
こうした武力行使では、「世界平和」は築けません。話し合い外交が必要です。アメリカが戦うというのであれば、日本がアメリカと相手国との間に入って、仲介をする「中立性」が必要だと思えます。それが「戦争放棄」を掲げる憲法の精神を国際社会に活かすことになると思えます。

東久留米「九条の会」13周年のつどいに

佐高信氏講演

「いま、日本と憲法を読む」

(前回の続き)



評論家佐高信さん記念講演のつづきです。(要旨)

ものが言えない風潮

日本は日米安保条約で、いつどこでも米軍機が事故を起こす危険があります。沖縄だけではないです。日本は日米関係と同じように日中関係を大事にしなければいけない。アメリカだけと仲良くするとか、中国だけと仲良くする、というのはいけません。今ネット右翼は中国敵視ですが小泉政権

のころからです。ものが言いにくい、そういう風潮が強くなってきた。戦前の雰囲気もそうなんです。

戦争中に軍人一家の長男に嫁いだ加藤まささんという人の話を亡くなった吉武照子さんが書いています。

加藤まささんという人は軍国の母です。しかし女の子が二人生れた。すると親戚中から「また女か」と言われる。ようやく息子が生まれて「でかした」と言われた。その息子をスパルタで育て、江田島の海軍兵学校に入れる。軍隊に入って出征。特攻隊で出る前に家に戻ると、まささんは先祖伝来の短刀を渡した。短刀を渡すというのは、「つかまりそうになったらこれで死ぬ」ということです。「生きて虜囚のはずかしめを受けず」です。

加藤さんは特に愛国の母というわけではなかった。息子に短刀を渡す母はかなりいたようです。息子は上官にするような敬礼をして旅立っていく。まもなく戦死の報が届くわけです。遺骨はありません。遺髪と遺書だけで、遺書には「後続くものを信ず」と書いてあった。その遺書も検閲を受けている。「死にたくない」とかは書けません。

いう歌。「生きて帰ると思うなよ。白木の箱が届いたら、でかした我が子あつぱれと、お前を母はほめてやる」という歌が大流行しました。当時の新聞などを見ると「軍神」と称えられる。加藤まささんの写真も載って、まさに「軍神の母」ですよ。大喝采のなか、当時加藤さんは疑問を持たなかった。一種の躁状態になつてたんでしょね。

三国連太郎の場合

特攻隊の仲間で、万が一、助かったらほんとの遺書を届けようというので書いていました。生き残った一人が本当の遺書を加藤まささんに届けたのです。そこには「ただお母さんに黙って抱いてほしかった」と書かれていました。短刀なんかほしくなかった。黙って肩とか抱いてほしかった。それを読んで加藤まささんは「私が殺した」と言っただけで、息子が死んだ南方の島々を回って遺骨を集め、手を合わせる旅を死ぬまで行ったそうです。当時はやった「軍国の母」と

もう一人、俳優の三国連太郎さん。昭和18年ごろ二十歳で、戦争反対の運動にかかわって大阪の綱島警察署にぶち込まれる。すぐ軍隊に入ることになって、釈放されると、軍隊に入りたくないの、逃げようとして貨物列車に乗って小郡につき、母親に手紙を書いた。佐賀の唐津まで来た時に捕まった。脱走ですから普通なら拷問にあいますけど、なぜかそのまま故郷に返されたんです。母親が来たけど正面から顔を見ないで言ったそう

安倍9条改憲NO!全国統一署名)改憲勢力が断念するまで!

です。「お前もさんざん親不孝したけれども、これでやっと天子様に恩返しができる」と言ったそうです。その時三国連太郎は、そうか母親が手紙を憲兵隊に見せたんだな、と分かったんだそうです。

復員後映画に出るようになり、有名になっていった。しばらくして父親がなくなる。父は差別を受けてきて、棺桶づくりをしていた。その後母親が死んだとき、母の棺を背負ったとき背筋を冷たいものが走ったと言います。三国にすれば必死の覚悟で脱走した時息子の手紙を憲兵に渡した母親は許せなかった。息子としてみれば許せなかった。父親はどうかということもあります。母だけでなく父親もともに息子を国に売ったのです。国というものがはたして息子の死に値するものなのか、ということを常に考えていく必要がある。

勲章と国家

城山三郎さんが紫綬褒章の

内示が来たとき、これを断わりました。すると奥さんが、「断るのはもらった人に失礼じゃないの」と聞かれ、うろたえたそうですが、「でも俺は国家というものが信じられないのだ」と言って断ったそうです。

私は人の判断で勲章もらう人はパー。(笑)それだけの人。勲章は政治家が一番上。役人がその次で、民間がその下。宇野宗助という首相がいましたね。勲一等貰ってます。平岩外四という人東京電力の社長、経団連会長も勲一等貰ったのですけれど、同じ一等でも宇野さんよりずっと下の褒章です。平岩さんは親分が木川田一考という人で、この人勲章もらってないのです。まれにいます。だから私が週刊東洋経済に「平岩さん宇野以下の勲章もらってうれしいか」と書いたのです。(笑)そしたら城山三郎さんから電話があつて二人は仲いいのですが、「平岩さんが会いたがってる」というのです。私は会いたくない。(笑)会いましたよ。お茶飲んだりしてま

したが、帰り際に平岩さんが「佐高さん、私は勲章拒否するほど偉くないですよ」というのです。「それはそうでしょうね」とは私も言えません(笑)。

電力というのはちよつと特殊です。戦争するには電力は必須のものです。民間企業だと統制しにくいから戦争になると電力は国家の管理下に置かれます。ナチが最初にやったことです。日本もそうしようとしたらかつては電力にも侍がいて松永安左衛門という人がいて、その子分が木川田一孝。松永、木川田には国家に対するある種の自立心があるわけ。松永は「官僚は人間のくずである」なんて官僚の前で言っちゃう。木川田は最初原発に反対した。ところが原発に反対していると国家が直接原発に乗り出すのを恐れて受け入れちゃうんですね。

憲法は99条が大事だと思えます。権力者の頭にくぎを打つのが憲法です。

安倍が3年ぐらい前にアメリカの議会で演説しました。

その時、英語で演説したわけ。私は「おかしい」と言ったのです。言葉はいのち、くらしです。英語でなぜやったのか。

私の批判に反応したのは沖繩出身の照屋寛徳さん。政府に「どういう場合に英語で演説し、どういう場合に日本語でやるのか」質問しました。沖繩では戦争中沖繩の方言を使うと方言ふだをぶら下げられました。安倍内閣の答えは「アジアでは日本語でやってます」というのです。もつとひどいですね。そこがすごく残念です。日本語が大事とか言っているわけではない。歴史と自分たちのくらしに敏感かどうかということ。日本会議はなぜ反応しないのか。話が悲憤慷慨（が）になつてきましたね。会場がシーンとしてきたらやめることにしています。言いたいことを言つてさっと帰るのが好きです。これをヒットエンドランと言います。これで終わります。(笑、拍手)

南京大虐殺紀念館に行ってきた

上海空港に到着し、長い列に並んで入国審査をすませると、ガイドの曹陽さんが出迎えていました。距離300キロで1時間19分、南京へ移動しました。中国はとっても広い、高鉄に乗っている間まっすぐで起伏がなくなっ平、南京までの間、山らしい山は一



つもありません、そして高層ビル群と、何車線もある広い道というのが第一印象です。



1972年上海に派遣された日本軍は、ろくに食料も装備も持たず兵站部隊もないまま、南京まで300キロの道のりを徒歩で進軍、その途中で現地住民から略奪、民家に宿営して出発するときには放火する。さらに殺害や強姦などの蛮行を積み重ねながら南京にたどりついたとあります。殺害された人たちの数は20万とも30万とも、強姦された女

性たちは2万人以上とも言われています。この記念館はまさに大量殺害の現場に建てられています。下の写真は発掘されたままの状態で保存されています。7層にも重なって見つかりました。

そのころの日本では戦需景気に沸き、大本営の広報となり下がった大手新聞は、南京陥落を大々的に報じ、一般市民に現実には伝えられないままでした。



最近日本では、歴史を変えようとする動きがありますが、実は何か、政治家の言葉やメディアに惑わされずに、見極めることが大事だと思います。国と国の関係はそこで暮らす人たちとの関係とは異なります。市民レベルではみんな同じなのだと感じました。

大山(下里)

お知らせ

東久留米革新懇 記念講演 どなたでもご参加ください
一斉地方選・参院選勝利で改憲ストップ!
 —消費増税をやめくらしと平和を守ろう—
2月24日(日) 開会 午後1時30分
生涯学習センター第1第2学習室



講師 **五十嵐 仁** 法政大名誉教授
 『徹底検証 政治改革神話』、『戦後政治の実像—舞台裏で何が決められたのか』、『現代日本政治—「知力革命」の時代』、『活憲—「特上の国」づくりをめざして』(等著書多数)

(講演は3時迄。3時10分から総会) 資料代 300円
 くらしを守る 革新東久留米の会 (事務局—倉本方 TEL473-4239)

東京20区市民連合連絡会講演会

『参議院・衆議院選挙』に向けての
市民運動・市民連合と野党共闘の課題

講師 **廣渡 清吾** (東大名誉教授)

(市民連合呼びかけ人・安保法制に反対する学者の会)



日時 **2019年1月27日(日)**
PM2:00~

会場 **清瀬けやきホール・セミナーハウス**

主催 東京20区市民連合連絡会 (連絡先 東久留米 中村幸夫 TEL090-9801-1867)